

今

回は、神尾城跡で最大規模を持つ、堀切4を取り上げます。一級品の堀切です。

【堀切4の場所】城跡の山の主軸は、東側から西側に延びており、図4の様に東側を「天」とすれば、鋭角三角形を逆にした形状になります。

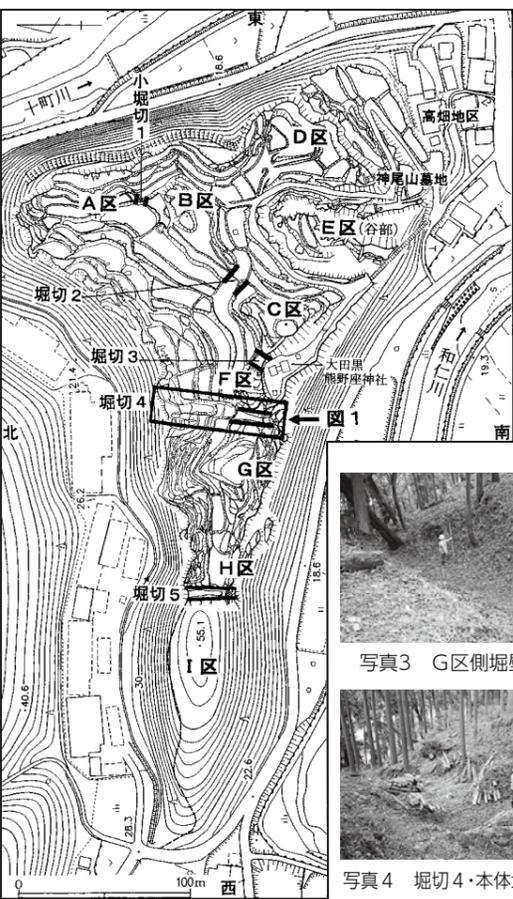
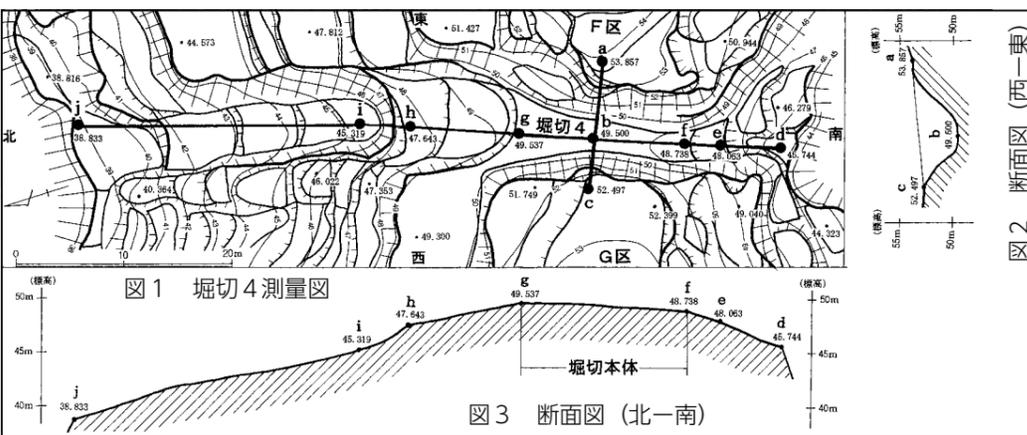
尾根筋の中途が極端に括れており、堀切は、この箇所を大きくカットしています。F区とG区間に位置する事になります(以下、計測値は、傾斜距離)。

【堀切の形状】堀切の底部は、南側から北側へ6つ(e-j)に分けました。中心部は、本体箇所f-gで、帯状形をしています。長さ15.4m、幅6.2m、高低差は、0.8m。

本体から北側へ下る表側の堀底は、g-hが、長さ10.4m、堀幅7.5m、ここは、後世に崩壊しており、堀底が不明確です。高低差1.90m。h-jは、長さ32.2m、幅3.8x5.2m、高低差8.81m。

一方、堀切本体の反対側(南側)にあたるf-eは、長さ3.2m、堀幅4m、高低差0.7m。これから斜面部は、ラッパ状に開き、d地点からは絶壁になります。堀底(e-j)の全長は、61.2mと判明しました。

【堀切4の形状】堀切の底部は、南側から北側へ6つ(e-j)に分けました。中心部は、本体箇所f-gで、帯状形をしています。長さ15.4m、幅6.2m、高低差は、0.8m。



【小結】堀切の61.2mの長さは、「古城考」の神尾城の項の「口2間 流れ30間の堀有」と、ほぼ一致します。堀切4の説明と思われます(平成30年の5月号・神尾城跡⑤では、堀切2と推定しました)。1間の長さは、6尺5寸(1.97m)と考えます(神尾城跡⑤に理由も書いています)。すなわち「堀切が3.94m、長さが59.1m」の堀切である事を示しているのです。先に述べた計測値に見合う数値です。

堀切の深さは、図2の断面図から、現時点で3.6m。カットとした尾根筋の斜距離の長さは、10mに及びます。

城時代は、もっと深く、造営時の排土量は、かなりのものになります。城造りが、いかに大変であったかが、分かります。



図4 神尾城跡 全体縄張り図



シリーズ日本遺産 20

米作り、二千年にわたる大地の記憶

社会教育課 文化係 ☎0968 (34) 3047



菊池川 日本遺産 検索

降雨を祈るまつり①

米作りには、土地と水が欠かせません。現在のようなかんがいが整っていない時代、雨不足(水不足)は米の収穫減少に直結していたため、農家にとって死活問題でした。「苦しいときの神頼み」の言葉にあるように、水不足になると人々は踊ったり、太鼓をたたいたりして、雨が降るように神へ祈りました。かつては各地で踊られていたようですが、社会の変化と水利環境の向上などによって、次第に数を減らしています。今回は山鹿市と菊池市の雨乞い踊りなどを紹介します。

山鹿市の雨乞い踊り

山鹿市北部の山あいには、迫雨乞い太鼓踊り(鹿北町辛生)、相良雨乞い踊り(菊鹿町相良)、小坂雨乞い踊り(小坂)

坂)が伝えられています。いずれもはつきりとした由来は分かりませんが、迫は少なくとも180年、相良は300年以上、小坂は500年以上昔からあるといわれています。迫では「明治37年」と墨書きの残る大太鼓が今も使われています。相良は踊り手がほぼ女性で、男装した二人が踊りの輪に加わります。小坂は踊りの形態が古く、念仏踊りの形が変わったものとされています。

また、菊池川に面した平地の集落でも雨乞い踊りが継承されています。宗方万行は山鹿大橋近くの宗方区に伝わる雨乞い踊りで、今から300年以上前に願書という僧が伝え、その名が訛って「万行」と呼ばれたといわれています。中川橋に近い川北地区(鹿本町中川)に伝わる川北雨乞い踊りは、今から約400年

前に始まったとされています。かつては地域内のお宮から堤までを移動しながら踊っていたそうです。

住吉日吉神社雨乞い太鼓

花房台地南側にある菊池市泗水町住吉に伝わる住吉日吉神社雨乞い太鼓は、今から約500年前、この地を治めていた合志隆門によって始められたといわれています。

これらの雨乞い踊り、雨乞い太鼓はそれぞれの曲や踊りは異なりますが「大太鼓や鉦(銅鑼)を打ち鳴らす」「浴衣姿の踊り手が蓑笠をかぶる」「輪になって踊るものが多い」など、共通する部分もあるようです。中には踊り手の腰に大きなひょうたんをぶら下げ、こっけいな動きで場をにぎわせるものも見られます。(担当:山鹿市社会教育課)

イベント情報

■菊池一族と延寿鍛冶展
菊池一族のお抱え鍛冶「延寿」の刀と日本の名刀を集めて展示します。刀剣ファン必見です。

場所 菊池神社歴史館
日時 5月12日(日)まで
午前9時~午後5時
入館料 大人800円、小学生400円

■菊池観光協会
☎0968(25)0513

■日本遺産巡回展(山鹿編)
これまでの展示に加えて、山鹿市の構成文化財を詳しく紹介します。今回が最後の展示です。

場所 山鹿市立博物館
日時 5月6日(月)休まで(月曜休館)
午前9時~午後5時(入館は午後4時半まで)
入館料 大人2100円、子ども500円
山鹿市立博物館
☎0968(43)1145



川北雨乞い踊り(山鹿市鹿本町中川)



住吉日吉神社雨乞い太鼓(菊池市泗水町住吉)